

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	こども通所サービス にじいるプラス（放デイ）		
○保護者評価実施期間	2025 年 12 月 22 日		～ 2026 年 1 月 30 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	2026 年 1 月 6 日		～ 2026 年 2 月 10 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 2 月 27 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者に送迎を担っていただいていることで、日々の対面でのやり取りが可能となり、子どもの様子や家庭での状況について密に情報共有ができています。 継続的なコミュニケーションにより、家庭と事業所が連携した支援につながっている。	送迎時を大切な情報共有の機会と捉え、困りごとや相談したいことを気軽に話せる雰囲気づくりを心掛けている。 職員から積極的に声をかけることで、保護者が安心して思いを伝えられる関係づくりに努めている。	定期的なモニタリングに加え、必要に応じて随時相談の機会を設け、よりきめ細やかな支援体制の充実を図っていく。 どの職員でも丁寧に話を聞ける体制を整えるため、傾聴やコミュニケーションに関するスキル向上に取り組んでいく。
2	音楽プログラムは、専門資格を有する職員が担当しており、専門的な知識と技術に基づいた支援を提供している。	・「こども中心」「こどもが真ん中」をモットーに、今、子どもたちが興味を持っているものと音楽を結びつけたプログラムづくりに取り組んでいる。主体的に参加できる環境を大切にしながら、表現力・集中力・記憶力・思考力・創造力・想像力・即時応力等の育成につなげている。 ・ビジョントレーニングの要素を取り入れ、視覚と身体の協応を意識した活動を実施している。また、音楽アプリを活用し、子どもが楽しみながら参加できる工夫を行っている。音楽に合わせて遊ぶ経験を重ねる中で、「感じる力」や「表現する力」を育むことを目指している。	活動内容について職員間での共有をさらに徹底し、全職員がねらいや支援の視点を理解した上で関われる体制を整えていく。また、必要に応じて職員も活動に参加し、子どもと共に楽しみながら関わることで、より丁寧で一体感のある支援につなげていく。
3	個別学習プログラムを行っている。	1対1で指導することで、学習することの習慣化、集中力・持続力の定着につなげている。	こどもの苦手分野を的確に捉え、アプローチの種類を増やしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもの関わりが少なく、地域交流の機会が十分とは言えない。	他の施設等との連携体制が十分に構築できておらず、日程調整や連絡のタイミングが合わなかったことが、地域交流の実施に至らなかった。	スーパーへの買い物活動や、季節の良い時期には公園等の地域資源を活用するなど、地域の中で活動する機会を計画的に取り入れていく。地域の子どもと自然に関われる場面を大切にしながら、地域とのつながりを意識した支援を展開し、交流機会の拡充を図っていく。
2	非常時の対応についての周知が図れていない。	避難訓練を行ったり、非常時の対応マニュアルを、自由に見えるよう掲示しているが、周知しきれていない。	連絡帳での報告に加え、ホームページやInstagramに訓練の様子を掲載するなど、情報発信を強化し、周知の徹底を図る。